

インターバンクの声（2017 年 10 月 16 日）

先週末、ニューヨーク市場の円相場は、9 月の米消費者物価指数が全体の数字とエネルギーと食料品を除いたコア指数がともに市場予想を下回ったことが響き、9 月の小売売上高や 10 月のミシガン大学消費者景況感指数が堅調だったにも関わらず 112 円台に戻ることはなかった。

消費者物価指数が前日の生産者物価指数に続いて堅調な結果となっていれば、FRB の 12 月の利上げはほぼ確実視されることになっていたかも知れないが、これで 12 月の利上げ確率は再び大幅に低下してしまったようだ。

米 10 年債利回りが 2.45% を明確に超えて行くことも利上げの有無の指針になっていたが、ニューヨーク市場終盤には 2.30% 台すら維持出来ず、2.27% にまで低下してしまった。

それでも 12 月の FOMC まで 2 カ月弱ほど時間が残っており、市場は引き続き今後の米国の経済データを注目することになる。今週は中国共産党大会が開幕し、次期 FRB 議長が決まる可能性もあるが、どの材料も流動的で相場の先行きが読み難い状況に変わりはないようだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。